

農園便り 9

月号 (91号)

文責 筒口 典康

(2020/9/01)

8月に入って、驚くばかりの連日の猛暑、酷暑、炎暑。 生命を脅かす高温強光・高湿度・強乾燥。 然もコロナ禍 !!! ... あまりの強い光にサトイモの葉が枯れこむ。

畑には5時に出かけて、8時には帰宅するようにした。「あんた畑に行くの？、死ぬわよ！」と妻が叫ぶ。

マスク・帽子・腕に手甲・首に冷却タオル、手に冷茶と手拭い。 自電車に七つ道具・収穫袋。 畑に出る時には色々手がかかる。 ギャラ携帯、小銭入れ。 最後に畝間に置いた水槽(中コンテナ)のメダカの餌。

なんとか畑の畝間の気温を下げよう、...。 元気なオカワカメの垣根で囲む。 この垣根は、日照を妨げない程度にしないといけませんので難しい。この日照り、強光下に置いても元気な植物を利用する。 例えば、熱帯ハーブのレモングラス、サトウキビ、それらをバンカー状態に植える。 サトウキビは、去年からやっています。

シニア若竹会の第二農園で耕作していた時には、粟・黍・コーリャンでやっていました。 種は飯能市の「野口種苗」のメールで、注文しました。 千代田区の神保町の「農文協・農業図書センター」にも置いてありますので出かけた時に購入しました。 ここには面白い種子が色々置いてあります。

耕作区「58番」の中央に、作業路を設けてありますので、少しその路面を下げて、水が集まるようにしてやります。 水を撒くときには多めに撒きます。 散水と共に排水を考えます。 耕作区全体が涼しくなる。 作業路に水槽を置く。



8/02 ミニトマト 甘い!



8/02 大玉トマトステーキハウス

2日ほど畑に行きませんと、コンテナのメダカ池(水槽)の水が干上がる。 田土の中に潜り込んで降水を待っている。 クワイ・レンコン・セリ・クウシンサイイネらの茎葉からの水の蒸散は激しい。 いか程の効果があるのか、...。 やっている。 8/19/5:55 農園に行く。

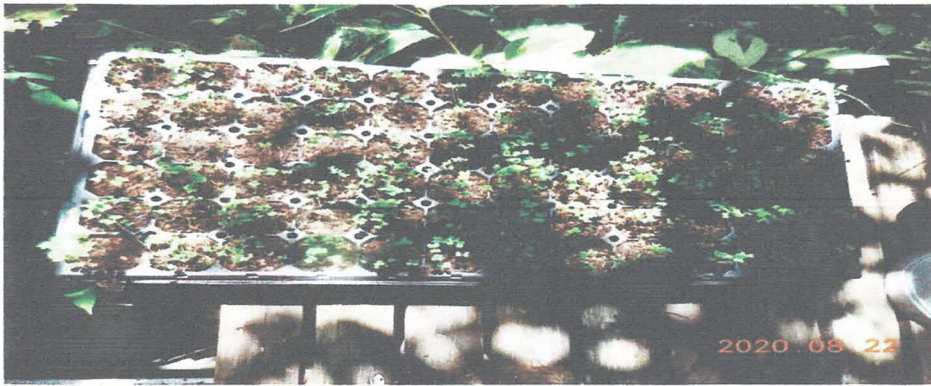


7/27 蓮根 イネ 浮草



同日、手前から 空心菜 ホテイソウ

コンテナに植えた食用蓮根の調子が悪い。去年は今頃は、花が咲いていましたのに、葉芽も花芽も上がって来ない。春先、二度も三度も抜かれてその度に、「元気になっておくれ！」と土に挿しこむ。すっかり、弱ってしまっ



8/22 8月18日に蒔いた混植葉もの野菜

8/18 秋冬野菜の種を育苗トレに蒔く。タキイ種苗の「グリーンベビー」。混植用の、葉もの野菜です。小松菜の種を追加してみました。春の混ぜ蒔きは上出来でした。野菜の原っぱ状態。密植気味で、雑草の芽が出ませんでした。見つけると指で摘まんで抜いてやる。たわいなく抜けるから、ラクラク。

種を蒔いて三日目、小さな双葉に緑色。モヤシ化しないように水を控えます。トレーに播きますと、どうしても茎が徒長してしまいますので要注意。家の中に夜間だけ置く、それが悪いのか？ 毎度困っています。

NHK「野菜の時間」(毎週木・12時・2チャン)で、藤田先生(恵泉女子短大)の野菜づくりを見ました。醗酵牛糞(堆肥) + 化成(8・8・8)での慣行農法であります。練馬区に加藤義松氏「野菜の学校」。農協指導の栽培方法と同じであります。

透明ビニールで覆って、紫外線・高温。で、病・虫害対策。肥料の全層施肥畝底に化成の元肥。ビニール、化成肥料をどんどん使う。アブラムシ・青虫対策には、ネット掛け。

それにしましても、虫が少なくなりました。昭和の時代は、夜間明りを点

けておくと、戸の隙間から蛾や甲虫が飛び込んできました。 どうでしょう「フマキュラー」を始めとする噴霧缶で、「シュッ!・シュッ!」

早朝、畑に出れば、虫たちの羽音。コーラス。 でも今は、無い。 虫たちがいない。

コロナは恐ろしい。 国内外で見ます、TVで。 果樹園で使うような大型散布機で市街を消毒。 今の時点では必要なのですが…。 いいのでしょうか? 地表・地中は、殺菌剤で汚染されているのです。 必ずそのしっぺ返しが起こるでしょう。

中国「上海」に旅行した時に、畠の水路が緑色。 硫酸銅の緑色。 農薬の過剰な使用。 空恐ろしいことが進んでいる。 中国の富裕層は国内産の野菜は食べない? という。 無・減農薬の輸入野菜を食べていると言う。

2013 別冊宝島「忍びよる中国汚染食材・食品」日本人が知らずに食べている! を読めば、恐ろしさが明らかです。 殺菌剤での除菌の是非を考えよう!!!

それにしても、コロナには、「ワクチン」の完成が待ちどろしい。 手洗い。 マスク。 三蜜。 … を守ろう。 有効な対策手段である。

津田沼の岩城君から電話をいただく。 クワイ、キウイ、グレープフルーツ、… で、色々教えてもらう。

「クワイ」は、ピンポン玉程度のものが一番美味しいと。 大玉になるとアクが強くなるので、一週間ほど水に晒さないといけないようだ。 昔はお年寄りに聞けば何とかなつたものですが…、 今は、ネットで「ハイ!」ですものね。 どれどれ、検索してみるか!

「キウイ・フルーツ」、大勢な蔓を伸ばし暴れる。 棚中がキウイの実。 とにかく元気なものだ。 授粉用のオス木が必要です。 緑のカーテンに使うには勢いが良すぎる。 棚の下の植物は、光不足になり、消滅してしまふ。 10月ぐらいから順次収穫。 年を越しても冷所に置いておけば、長くいただける。 収穫始めの頃は酸味が強いので、「ミラクルフルーツ」を口にしてから頂くと甘くて美味しい。

以前、新宿「高野」のフルーツパフェでいただきました。 大皿に、キウイ、グレープフルーツ、ブンタン、…。 キウイの皮は褐色、実は緑・黄色、グレープは、赤・緑・黄・橙色。 見事な盛り付けでした。

小皿に「ミラクルフルーツ」。 完熟していない果物が「ミラクルフルーツ」を口に含んでから戴くと、酸味がすべて甘未となる。

糖尿病などで糖分禁止の方に、完熟前の糖分の少ないスッパイ果物で「甘未欲求」を満たすことが出来ますので重宝。 このところ「高野」に、このメニューは、ない。 止めている。 「ミラクルフルーツ」の種を持ち帰って播いてみますと良く発芽する。

岩城の「グレープフルーツ」は旅先で食べた時に持ち帰った種を蒔いたものだという。 40~50年は付き合っているそうで、これも見事。 ガレージの上を覆う。

津田沼は暖かく寒さに弱いものたちが越冬できる。今は住宅やビル街になっている浜。小高い丘の上のお宅です。江戸末期に入植した武士の一族であると自慢する。隣のお兄様の家には、氏神を祭っている。



8/22 ミラクルの根元

8/22 ミラクルフルーツ

「ミラクルフルーツ」は猛暑大好き、鉢が乾くのを待って、タップリ水を与える。月一で追肥。越冬温度は14~15℃はほしい。冬季は水を控えめにする。葉を落とさない温度管理が必要である。18℃あれば、冬でも開花結実する。花が咲くと、とても良い香りがいたします。

今年は、キュウリ、ナス、トマトの機嫌が悪い。

「ナス」有機物は十分に与えた。「みのり堆肥」タキイの「ダルマ堆肥」、「醗酵鶏糞」「醗酵豚糞」「光合成細菌」。7月でバツタリ。追肥穴に12・12・12+グリーンランド(醗酵豚糞)の効果、なし。

「キュウリ」苗を植えた時点で種を蒔く。始めは順調でしたが、オカワカメに負ける。

「トマト」スイカ名人の田中さん『トマトにはトマトーンだヨ』の助言を聞かず、3段目から全くダメ。8月の猛暑期に入ってしまう。夏の3次野菜が失敗。

杉並の西山氏の畑を見ると、元気に育つナス。「よく出来ていますね」、「ナスは水だヨ！」(畑は上石神井南) 水だけではない、知っている限りで彼は30年以上有機物を多投入している。土壌鑑定も定期的に行っているようだ。本家の叔父様は農大教授の名士。さすが。農家の実力と言うものだ。

区民農園の田中さん(94歳)は、西山さんの畑を超えるトマトの収穫。私の頑張りが足りないと反省する。

西山さんはオカラ、青梅街道並木の櫟の落ち葉、善福寺井公園のマコモの茎葉、同公園のクヌギ・コナラの落葉。使えるものをどしどし畑に入れている。彼の畑で取れる野菜は、ウマイ！ 安心安全な野菜づくりをしている。

「西山君、あなたの畑の土を分けてほしい・・・」、「・・・」ノーコメント!!! 虫の良い話だもの当たり前である。… 有機農法の佐倉の「林重孝農園」、家の光「野菜畑」について紹介していきたい。 T